

# 永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015年 4月

「安息日（前編）」 「このお方の来臨のメッセージ」 「強められた第三天使のメッセージ」

# 永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

## 目次

### 今月の聖書勉強

「安息日(前編)」 4

聖書の教え

### 朝のマナ

「このお方の来臨のメッセージ」 10

われらの主よ、きたりませ

### 現代の真理

「強められた第三天使のメッセージ」 41

三重のメッセージ - もう一人の御使のメッセージ

### 力を得るための食事

「ほうれん草のポタージュ」 50

### お話コーナー

「いなづまから学ぶこと」 52

#### 教会

##### 【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1  
電話：0494-22-0465  
FAX：0494-26-5059

##### 【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2  
電話：088-831-9535

##### 【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21  
電話：0980-55-8136

#### アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>  
メール：[support@4angels.jp](mailto:support@4angels.jp)

発行日 2015年3月31日  
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション  
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;  
HighRes on pages 8, 52

## 神のもとに来ることのできる条件

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。すべて求める者は得、捜す者は見だし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」(マタイ 7:7, 8)

主は、そのみことばについて、不信や誤解や誤った解釈の余地を残さないように、三度繰り返して言われた約束をもう一度仰せになっている。……

ただあなたが神の恵みを渴望し、その勧告を望み、その愛を熱望することのほかはなんの条件も設けられていない。「求めよ」。求めることは、あなたが必要を認めていることをあらわす。あなたが信仰をもって求めるなら、与えられるのである。主は誓っておられるから、それは必ず成し遂げられる。もしあなたが真に悔い改めて主に来るならば、主の約束なされたことを求めることが出すぎたことと考える必要はない。キリストにならって完全な品性を築こうとし、必要な祝福を求めるならば、主は、あなたが、まちがいないお約束に従って求めているのだと仰せになるのである。あなたが自分は罪人であるということを感じて自覚すれば、主の情けとあわれみとを何らはばかることなく求めてよいのである。神のもとに来ることのできる条件は、あなたが清いということではなく、神にすべての罪と不義から清めていただきたいと願うことである。……

「捜せ」。神の祝福だけでなく、神ご自身を求めなさい。……捜しなさい。そうすれば、見いだすであろう。神はあなたを捜し求めておられる。神のもとに行きたいという願いそのものが、聖霊が引き寄せていることにほかならない。その引き寄せる力に身をゆだねなさい。……主は……ご自分との交わりに入れようとしておられる。

「門をたたけ」。……神はわたしたちを謁見室に迎え入れようと待っておられる。……わたしたちは、神とのきわめて親しい交わりにはいることを許されるのである。……神の祝福を望む者は、主よ、あなたは、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう」と言われましたと言って、確信をもって恵みの戸をたたいて待つことである。(祝福の山 162～164)

## 4章 安息日(前編)

主が創造のみわざを完成された後、このお方は第七日目に休まれました。そのとき、それを祝福し、また人類の益のために、それをきよく守り、一切の世俗の働きを止めるために、それを聖別されました。こうして安息日は創造主のみわざの記念として設立されました。これが主の日です(創世記 2:1-3; マルコ 2:28; 出エジプト記 20:8-11; 16:23; イザヤ 56:2; 58:13)。安息日はまた、神がアダムとその子孫たちにあずかってほしいと望んでおられる霊的な休息のしるしです。わたしたちにとって安息日はキリストのうちに見出す休息のしるしです(ヘブル 3:18, 19; 4:1-4, 9-11 (マタイ 11:28, 29 参照))。

「神の律法は、人間が創造される前から存在していた。御使たちはそれによって支配されていた。サタンは神の統治の原則を犯したために、墮落したのである。アダムとエバが創造された後、神は彼らにご自分の律法をお知らせになった。それはそのときに記されたのではなく、エホバによって彼らに繰り返されたのであった。

第四条の戒めである安息日は、エデンで制定された。十戒の中で具現化された諸原則は、墮落以前より存在していた。そしてそれは聖なる存在者たちの状態に適合していた。墮落後、これらの諸原則は変更されなかった。何一つ神の律法から取り去られなかった。かえって、墮落した状態の人間に合わせて、追加的な規則が与えられたのであった。」(サイン・オブ・タイムズ 1880年6月10日)

「安息日はイスラエルのためだけでなく、世界のためであった。それはエデンで人に知らされ、十戒の中の他の戒めと同じに、不滅の義務である。この第四条が一部となっている律法について、キリストは、『天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはな』いと宣言しておられる(マタイ 5:18)。天と地がつづくかぎり、安息日は、創造主の力のしるしとしてつづくのである。そしてエデンがふたたびこの地上に栄えるときに、神の聖なる休日、天下のすべての者によってあがめられるのである。安息日ごとに、輝く新天地の住民は『わが前に来て礼拝する』と主は言われる(イザヤ書 66:23)。

ユダヤ人に与えられた制度の中で彼らを周囲の国民から区別するのに安息日

ほど役立ったものはなかった。神は、安息日を守ることが神の礼拝者である証拠となるように計画された。それは、彼らが偶像礼拝から離れ、真の神とつながっていることの証拠となるのであった。しかし安息日を聖とするためには、人は自ら聖でなければならない。信仰によって彼らはキリストの義にあずかる者とならねばならない。『安息日を覚えて、これを聖とせよ』との命令がイスラエルに与えられたとき、主はまた彼らに、『あなたがたは、わたしに対して聖なる民とならなければならない』と言われた(出エジプト記 2:8; 22:31)。このようにしてのみ、安息日は、イスラエルを神の礼拝者として区別することができた。

ユダヤ人が神から離れ、信仰によってキリストの義を自分の義としなかったとき、安息日は彼らにとって、その意義が失われた。サタンは自分自身を高め、人々をキリストからひき離そうとつとめていた。そして彼は、安息日がキリストの力のしるしなので、これをゆがめるために働いた。ユダヤ人の指導者たちは、神の休みの日をやかましい規則づくめにすることによって、サタンの意図を達成した。キリストの時代に、安息日はまったくゆがめられていたので、安息日を守ることは、愛に富まれる天父のご品性よりはむしろ利己的でわがままな人間の品性を反映していた。」(各時代の希望上巻 363, 364)

## 関係のしるし

安息日は、神とその民の間関係のしるしです。それは彼らを、神の戒めを守り、偶像礼拝に関わることなく、真の神を礼拝する、特別にして固有の神の民として指名するのです(出エジプト記 31:16, 17; エゼキエル 20:20)。

## 救出と贖いのしるし

イスラエルの子らがエジプトから出てきたとき、安息日はまた奴隷のくびきからの救出のしるしとして宣言されました(申命記 5:15)。それは神の記された律法一主の右の手から出た十誡の「火の律法」一の一部となりました(申命記 33:2 英語訳) わたしたちにとって、安息日はまた罪の奴隷のくびきからの救出のしるしです。ですから、それは聖化と贖いのしるしなのです(ヨハネ 8:32-36; 出エジプト記 31:12, 13; イザヤ 56:1, 2; エゼキエル 20:12 (ヨハネ 17:17 参照))。

## キリストの義のしるし

神の律法は、このお方の義の表現です(詩篇 119:142, 172)。そして安息日が神の律法の印であるため(出エジプト記 31:17; イザヤ 8:16)、真の安息日遵守はまた、信徒のうちに新しい心を創造することにおけるキリストの義のしるしです。

## キリストは真の安息日遵守をお教えになった

安息日に関わるイエスとパリサイ人との間の論争は、一度も安息日を守るべきかどうかを問題にしたことはありませんでした。議論はただ安息日をどのように守るべきかに関するものでした。イエスは人間の不要な伝統を一切排除し、わたしたちに模範を与えることによって、「律法にかなう」安息日遵守をお教えになりました(ルカ 4:16; マタイ 12:1-12; ルカ 13:10-17; ヨハネ 5:2-11; 7:22, 23)。律法に従って正しい安息日遵守をお教えになることにより、キリストは安息日の戒めの聖なる効力を確認されました。

ご自分の弟子たちに対して逃げるのが安息日にならないよう祈りなさいと言われたキリストのご命令は、キリスト教時代における安息日の神聖さを確認しています(マタイ 24:20)。そのご命令はキリストの十字架後にユダヤ地方に生きていた信徒たちのためばかりでなく(マタイ 24:16-18; 使徒行伝 8:1 参照)、終わりの時代に生存している者たちの益のためにも与えられたのでした(マタイ 24:3, 32, 33)。

キリストを絶えず見張っていたパリサイ人たちは、このお方のうちに安息日を犯したという証拠を一つも見出すことができませんでした。このお方がカヤバの前に立たれた時でさえ、彼らはこのお方が安息日を犯したと告発することができませんでした。彼らはこの点においては、このお方に対して偽りの証人を用いることさえ試みませんでした(ルカ 6:7; マタイ 26:59-66; ヨハネ 18:28-31)。

十字架上のキリストの死によって、すでに新しい契約が確認されており(ヘブル 9:16)、それが有効にされた後は変更がありえなかったために(ガラテヤ 3:15)、弟子たちはなお第四条の戒めに従い、安息日に休み続けていました(ルカ 23:56)。

このお方の昇天の直前に、キリストはご自分の弟子たちに「あなたがたに命じておいたいっさいのこと」を守るように教えなさいとの最後の命令をお与えにな

りました。このお方は、一過去も現在も将来も一安息日が日曜日に変わるようなことを一言でも述べられたことはありませんでした(マタイ 28:20 (ルカ 16:17 参照))。

## 初期のクリスチャンは忠実な安息日遵守者であった

初期のクリスチャンたちは、週の第七日目の安息日を守り、一貫してその日に宗教的な集会を開きました(使徒行伝 13:14, 42, 44; 16:13; 17:1-3)。パウロは安息日ごとにコリントで説教をし、ユダヤ人やギリシヤ人を説得していましたが、安息日が日曜日に変わったと紹介しようとしたことを示唆するところはまったくありません(使徒行伝 18:4, 11)。教会の指導者であったアナニヤは、もし厳格な安息日遵守者でなかったなら、すべてのユダヤ人の間でよい評判を保つことはできなかったのです(使徒行伝 22:12)。

キリストの昇天後、ユダヤ人もクリスチャンも安息日に会堂で礼拝しました(使徒行伝 9:12; 22:19; 15:21 (マタイ 23:1-3; ヨハネ 16:2 参照))。初期のクリスチャンが安息日を守らないことによって、ユダヤ人の気分を害したという形跡はありません(使徒行伝 25:8; コリント第一 10:32)。

礼典律をめぐる教会内で対立がおこったとき、それは安息日を変えようとするどんな試みも引き起こすことはありませんでした。そのような試みは初期のクリスチャンの間で一度も生じたことはありませんでした。もし指導者たちがそのような深刻なことを試みようとしたならば、使徒行伝の書全体が、逸脱の試みによって生じた対立に言及して燃え上がっていたはずです。ですから、この問題に対する完全な沈黙は、初期のクリスチャンがこの点において新しい考えを作り出さなかったことを証明しています(使徒行伝 15:1-6, 23-29)。

## 新地で

贖われた者は、安息日ごとに主のみ前に来て礼拝します。安息日は永遠にわたって神の創造と贖いの記念日であり続けるのです(イザヤ 66:22, 23)。

## 安息日を聖とする

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはな

らない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた」(出エジプト記 20:8-11)。

神の律法の第四条の戒めは、神がエデンで制定された安息日として、週の第七日目の有効性を確認しています。この日に休まれた後、神はそれを祝福して、聖とされました(創世記 2:3)。そのときこのお方はそれをご自分の安息日、聖なる休息日、ご自分の創造の記念として取りおかれしました(マルコ 2:27)。このお方はまたそれを、人間とご自身、すなわち一人にして唯一の真の神としてのご自身の間の忠誠のしるしとされました(出エジプト記 31:17)。

神の聖なる律法に準拠した真の安息日遵守は、神が第七日目の安息日を制定された本来のご目的をはっきりと理解し、心のうちの神への愛が最高であるときのみ可能になります。安息日を神のみ言葉の中にある神の教えに従ってきよく守ることにより、わたしたちは自分の神として、創造主として、贖い主として、そして天父としてのこのお方への関係と忠誠を確認するのです。

## 安息日遵守の祝福

神が週の第七日目をご自分の聖なる安息日として祝福し、聖とし、とっておかれたとき、このお方はまたそれをご自分の教えに従って守るすべての人を祝福し、聖化すると約束されました(エゼキエル 20:12)。

「その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。これは主の口から語られたものである」(イザヤ 58:14)。

第四条は、週の他の日にできるあらゆるかたちの世俗の仕事を安息日することを禁じています。この禁止は、家族のすべての者、自分たちの家に滞在する訪問者、また家畜にさえ及びます。

## 金曜日、備え日

「安息日の準備は、金曜日に完成するようにしなさい。すべての衣服が準備され、料理も全部終わるように取り計らいなさい。靴はみがき、入浴はすませなさい。そうすることは可能である。それを常とすればできるのである。安息日は、衣服

の修繕をしたり、食物の煮たきをしたり、快楽を求めたり、あるいは、その他どんな世間的な事のためにも使ってはならない。日没前に、すべて世俗的な仕事はやめ、通俗的な読み物は見えない所に片付けてしまいなさい。両親よ、あなたがたのすることとその目的を、子供たちに説明し、安息日を戒めに従って守るための準備に彼らを参加させなさい」(教会への証 6 巻 355, 356)。

「子供たちが身につけるものは金曜日に見ておかなければならない。週の間に子供たちは、母親の指図に従って、自分たちの着る物は自分たちの手でそろえておくべきである。そうすれば、あわてたり、短気な言葉を出したりしないで、静かに着替えられる」(家庭の教育 575, 576)。

備え日に、気をくばらなければならない、今一つの働きがある。この日には、家庭内であっても、あるいは教会内であっても、兄弟間の不和を片付けなければならぬ。心の中から、にがにがしい気持ちや、怒り、また悪意を、すべて追い出しなさい。謙遜な気持ちで『互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい』(ヤコブ 5:16)」(教会への証 6 巻 356)。

「安息日が始まったら、わたしたちは自分自身に門守を置いて、行動や言葉を守り、まったく主のものである時間を、自分のために当てて主から盗むことのないようにしなくてはならない。わたしたち自身も子供たちも、生活のための自分の仕事、あるいは六日間の働く日しておくことができたはずのことは、どんなこともしたりさせたりしてはならない。金曜日は備え日である。であるから、その時間はもっぱら安息日のための必要な準備と、安息日について考えたり話したりすることに費やそう。聖安息日を犯すことと神にみなされるようなことは、何一つ、安息日には言ったりしたりしてはならない。神はわたしたちが、安息日に肉体労働を慎むだけでなく、心を聖なるテーマに向けるよう訓練することを望んでおられる。第四条の戒めは事実上、世俗的なことを話し合ったり、軽率な、くだらない会話をしたりすることによって犯される。頭に浮かんでくることを何でも、すべて語ることは、自分の言葉を語ることである。正しいことからそれることはみな、わたしたちを、罪のとりこし、罪の宣告を受けるものとする」(家庭の教育 576, 577)。

# われらの主よ、きたりませ

*Maranatha*



4月「このお方の来臨のメッセージ」

## 世界でもっとも偉大な働き

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ 16:15)

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」とは、キリストに従う者に与えられる命令である。だれでも字義通りの伝道者や宣教師になるように召されているというのではない。それはわれわれがみなキリストと共に働く者となって、「よろこびのおとずれ」を同胞に伝えることを意味している。偉い人にも、凡庸な人にも、学問のある者にも無知な者にも、老人にも青年にも、すべての人にこの命令は与えられている。(教育 312)

現代の真理を知っている者はだれでもそれを他の人々に知らせる責任を負っている。キリストの僕は、世界の幸福と救いのために大きな責任がある。彼らはキリストに魂を勝ち取る働きにおいて、神の共労者となるべきである。(レヴィ・アッド・ハルト 1904年3月10日)

罪人の心を引きつける主題はキリスト、しかも十字架につけられたキリストである。カルバリーの十字架の上で、イエスは比類のない愛をあらわして立っておられる。飢え渴いている大勢の人にイエスをこのようなお方として示しなさい。そうすれば、主の愛の光は人々を暗黒から光へと導き、不法から従順と真の聖潔へと勝ち取る。カルバリーの十字架上のイエスを見つめるならば、他のことではとうていできないほど、罪の憎むべき性質に対して良心を目覚めさせるのである。(同上 1892年11月22日)

わたしたちの教会員は十字架にかかり、よみがえられた救い主、すなわち自分たちの永遠の命の希望が集中しているお方に自分たちの目をしっかりと留め続けないのであろうか。これはわたしたちのメッセージであり、論拠であり、教義であり、悔い改めない者への警告、また悲しんでいる者への励まし、そして信じる者すべてにとっての希望である。もしわたしたちが人々の心に、その目をキリストにしっかりととめさせるような興味を起こすことができたなら、わたしたちは脇へ退いて、ただ神の小羊だけに自分たちの目を留め続けるようにと頼むのである。……イエスに自分の視線を集中している者はすべてを捨てる。彼は自己に死ぬ。彼はすべてにおいて、キリストの内に光り輝く、また素晴らしく高められた神のみ言葉を信じるのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ハット・コメント] 16 巻 1113)

わたしたちの主イエス・キリストの来臨を期待するだけでなく、早めるのはすべてのクリスチャンの特権である。主のみ名を唱える者が、このお方の栄光へと実を結んでいるなら、全世界はどれほど速く、福音の種がまかれることであろう。最後の作物は、すばやく実り、キリストは尊い穀物を集めるために来られるであろうに。(教会への証 8 巻 22, 23)

## 十字架のメッセージ

「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。この十字架につけられて、この世はわたしに対して死に、わたしもこの世に対して死んでしまったのである。」(ガラテヤ 6:14)

神はご自分の民へのメッセージをわたしに与えられた。……あなたがたは価をもって買われたのであり、あなたの持っている物とあなたの存在はことごとく神の栄光とあなたの同胞の善のために用いられるべきである。キリストは罪の中に滅びることから世を救うために十字架の上で死なれた。主はこの働きであなたの協力を求めておられる。あなたは主の助け手となるべきである。熱心な、倦むことのない努力によって、あなたは失われた者を救おうと努めるべきである。……

キリストの恵みという改変する力は神の奉仕に自分を捧げる者を造り変える。……彼はこれ以上自分の周りにいる滅びゆく魂に無関心ではいられない。……彼は自分を罪の奴隷から救い出して下さったキリストに、自分の存在の各部分がみな属していること、また自分の将来の一瞬一瞬は神のひとり子の尊い生きた血で買われたものであることを自覚する。

あなたは進んで魂を救う働きのために他のすべての関心事を二次的なものとするほど、カルバリーで払われた犠牲を深く感謝しているであろうか。救い主の生涯を特徴づけた罪人を救いたいとの熱い願いと同じ思いが、主に本当に従う者の生涯を特徴づける。クリスチャンは自分のために生きようとは思わない。彼は自分が持っている物も自分自身もことごとく主の奉仕のために捧げることを喜ぶ。彼は魂をキリストに勝ち取るために、言い表しようなない願いに動かされる。……

わたしは、創造と贖いにより、わたしをご自分のものとしておられるお方に、どのようにしたら最もよく栄光を帰すことができるだろうか。これこそ、わたしたちが自問すべき問いである。真に改心している人は、心配をつのらせながら、まだサタンの支配下にいる人々を救おうと願うのである。……

今やわたしたちには永遠のために用意する時間はほんのわずかしかない。……人々は真理を必要としている。そして、熱心な信仰深い努力によって真理が彼らに伝えられなければならない。魂のために、探し、祈り、働かなければならない。……

わたしたちには、来るべき裁きについて世に警告するという重い責任が負わされている。……神はご自分の教会に、立ち上がって神の力をまとうよう呼びかけておられる。不死の冠を勝ち取らなければならない。天の王国を獲得しなければならぬ。そして、無知のうちに滅びつつある世界を、啓発しなくてはならない。(教会への証 7巻 9-12, 16)

## 愛によって動機づけられる

「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。」(ヨハネ第一 4:21)

愛は信心の基礎である。たとえ、口でなんと言おうと、もし、兄弟に対する無私の愛をもたないならば、神に対する純粹の愛をもっていない。……自己がキリストの中にとけこむとき、愛は自然にわいて出る。他を助け、祝福しようとする気持ちが常に内からわき出て、天からの光が心にあふれ、顔に表わされる時、クリスチャンの品性が完成の域に達するのである。……

キリストに連なる者は、愛という金の鎖によって、同胞と結ばれているのである。こうして、キリストのあわれみと同情とは、わたしたちの生活にもあらわれてくる。わたしたちは、貧しい者や不幸な者が、わたしたちのところへつれて来られるまで待たなくなるであろう。そして、他人の悲しみに同情することを求められることも不要になるであろう。わたしたちが、貧しい者や苦しむ者に奉仕することは、キリストが、あまねくめぐって善を行なわれたのと同様に自然なこととなる。……

神の栄光は、倒れた者を起こし、苦しむ者を慰めることにあらわれる。……

神は、国籍、人種、階級の差別をなさらない。……すべての人びとは、創造によって一つの家族であり、贖いを通して一つなのである。キリストは、あらゆるへだての壁をこわし、神殿のどのへやをも解放するためにこられた。それは、すべての魂が自由に神に近づくことができるようになるためであった。キリストの愛は、どんなところにもゆきわたって行くほど、広く深く満ちあふれたものである。それはサタンのもどかしにおちっていたあわれな魂をサタンの勢力の下から引き上げて、神のみ座、すなわち約束のじにかこまれたみ座のそばに、来させるのである。……

キリストは、すべて向上することを望む者を高めてご自分との交わりに入れようとしておられる。これは、キリストが父と一つであられるように、わたしたちをキリストと一つにするためである。わたしたちを利己主義から救い出すために、苦難や災難に会うことをお許しになる。神は、わたしたちのうちに、神の品性の特徴である同情とやさしさと愛をはぐくもうと望んでおられる。……

「あなたがもし、わたしの務を守るならば、……ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる」。神のみ座をとりまく天使たちの間にあなたをおくと主は言われるのである(ゼカリヤ書 3:7)。天に住む者たちが地上で行なう働きに協力することによって、わたしたちは、天で彼らと交わる準備をしているのである。(キリストの実物教訓 362-368)

## 証を始める場所

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

キリストのためのわたしたちの働きは家庭にいる家族から始めるべきである。……家族ほど大切な伝道地はない。(教会への証 6 巻 429)

生活態度に真に神をあらわし、神の約束やいましめが子供の心に感謝と敬神の念を起させる両親、優美、正義、忍耐によって神の愛と正義と忍耐を子供に伝える両親、愛し、信頼し、服従することを子供に教えることによって天の父を愛し、信頼し、服従するように教えている両親は幸いである。こうしたたまものを子供に与える親は、世のどんな宝よりも尊い宝、永遠に残る宝を子供に授けることになる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 347)

神は若い年齢の子供たちがご自分の子となり、ご自分の家族の養子となることを望んでおられる。若者は若くても信仰の家族の一員となり、最も貴重な経験をすることができる。彼らは柔らかい心をもっており、永続する印象を受ける準備ができています。彼らはキリストに対する信頼と愛を心に持つようになり、救い主のために生きることができる。キリストは彼らを小さな伝道者となさるのである。彼らの思いの全体の流れが変えられ、そのために罪は楽しむべきものとは思われず、かえって遠ざけ、憎むべきものとなる。(両親、教師、生徒への勧告 169)

両親は教訓と模範によって、子供たちに、改心していない人のために働くことを教えるべきである。子供たちがそのように教育されるなら、彼らはお年寄りや、苦しんでいる人に同情し、貧しい人や失望している人の苦しみを和らげようと努力する。……小さい頃から、他の人々の善やキリストのみ事業の進展のために克己や犠牲を払うことが教え込まれるべきである。そうすれば、彼らは神と共に働く者となることができる。……

神は地上の家族が天の家族の象徴となるよう計画しておられる。神のご計画に従って確立され、導かれたクリスチャン家庭は、クリスチャン品性の形成と神のみ働きの促進のために神の最も有効な代理人の中に数えられる。(教会への証 6 巻 429, 430)

## 困窮している世界

「われわれは光を望んでも、暗きを見、輝きを望んでも、やみを行く。」(イザヤ 59:9)

聖書を読んでも、その真の意味がわからないでいる者が多い。世界中の男女は何かを求めて天を仰いでいる。光と恵みと聖霊を求める魂から、祈りと涙とねぎごとが天にのぼっていく。多くのものは、み国の入口に立って、刈り集められるのを待つばかりになっているのである。(患難から栄光へ上巻 114)

自分が持っていないものを求めている人は各地にいて、罪に打ち勝つ力、悪の束縛から救い出してくれる力、健康と生命と平和を与える力を待ち望んでいる。ひとたび神のみ言葉の力を知りながら、多くの人が神の認められていない場所に生活し、しかも神が共におられることを切望している。

世界が1900年前に必要なとしたもの、すなわち、キリストの啓示は今日も必要であり、大改革運動が要求されているが、肉体と知能と精神の回復の働きはキリストの恵みによって初めて完成されるものである。

人の心を動かすにはキリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間と交際しておられた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして「わたしについてきなさい」とご命令になった。

個人的に努力をして、人々に近づいていくことが必要である。……わたしたちは泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである。納得させる力と祈りの力と神の愛の力が伴うならば、この働きが実を結ばずにおくはずはなく、必ず結ぶのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 114, 115)

全天は人間の働き人と協力しようと待っている。それは人間がどんな者になれるかということを世界に示すためであり、まさに滅びようとしている人間を救うために神と一体になればどんなことができるかを表わすためである。自己を忘れて心の中に聖霊が働く余地を与え、神に全く献身した生涯を送る者の有用さには限りがない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 132)

## 家々での教え

「また、あなたがたの益になることは、公衆の前でも、また家々でも、すべてあますところなく話して聞かせ、また教え、」(使徒行伝 20:20)

わたしたちの教会員の間で、聖書の読み物や文献を戸別に配る働きがもっとなされるべきである。……わたしたちがすべての水のほとりに種をまくとき、「豊かに種をまく者はまた豊かに刈り取る」ことに気がつく。

キリストの子供であると告白する者は、主の模範に従わなければならない。あなたの同胞の物質的な必要を助けてあげなさい。そうすれば、彼らの感謝は障害物を壊し、あなたが彼らの心に影響を及ぼすことが可能になる。……男性同様女性もみ働きに携わることができる。……女性は男性にはできない働き、すなわち、精神面での生活に影響を及ぼす働きを家庭の中ですることができる。また、男性の手の届かない人々の心に近づくことができる。女性の働きが必要とされている。分別があり、謙遜な婦人は、人々にその家庭で真理を説明するよい働きをすることができる。このように説明された神のみ言葉はよい感化を及ぼす働きをし、それによって……家族全体が改心するであろう。……

家庭の中で、隣家の暖炉の傍で、また病人のベッドのそばで、あなたは静かに聖書を読み、イエスについてのみ言葉と真理を語るができる。やがては芽を出し、実を結ぶ尊い種がこのようにまかれるのである。……

見込みがないと思われている多くの場所に伝道の働きがなされるべきである。伝道の精神がわたしたちの魂を捕らえる必要がある。それによって鼓舞され、思いもよらなかった方法と場所で、労する計画のなかった種類の人々へ手を差し伸べるのである。主は福音の種をまくための計画を持っておられる。主のみ旨に従って種をまくことにより、わたしたちは種をたくさんに増やし、それによって真理を聞いたことのなかった幾千の人々に主のみ言葉が届くのである。(教会への証 9巻 127-130)

千々、万々の天使たちは、人々がキリストの来臨のための準備ができるようにと神がおしみなく与えておられる光を伝達することにおいて、教会員と協力しようと待っている。(同上 129)

姉妹たち、青年たち、中高年者、そしてさらに年齢の進んだ人々も、この時代の最後の働きで役割を果たすことができる。そして機会のあるときにそうすることによって、彼らは自分自身にとって最高に価値のある経験を得る。自己を忘れることによって人は恵みに成長するのである。(伝道 468)

## 一対一での証

「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3:16)

神を愛していると公言するすべての者は、なぜ自分の隣人や仲間がこれ以上この偉大な救いをなおざりにすることがないように、彼らを啓発しようとしないのであろうか。キリストは滅んでゆく者を救うために魂の大いなる苦悩を示して、ご自身を恥ずべき苦しい死に引き渡された。ああ、キリストはご自身に来る者をすべて救うことがおできになり、そうすることを切望しておられるのである。

危険にさらされている魂に語り、許しを可能にするために死んでゆかれた十字架の上のイエスを彼らに見上げさせなさい。あなた自身の心が優しい、憐れみ深いキリストの愛に満ちあふれ、それによって罪人に語りなさい。そこには深い熱心さがあるべきだが、魂を見て生きるようにさせたいと努力をしている者の口から、鋭く荒々しい言葉が聞かれるべきではない。

まずあなた自身の魂を神に捧げなさい。あなたが天におられるわたしたちの仲保者を見上げるとき、あなたの心が碎かれるようにしなさい。そうすれば、心は和らげられ、征服されて、あなたは贖ってくださる愛の力に気づいている者として、悔いた罪人たちに語ることができる。このような魂を信仰によって十字架の下に連れて行き、共に祈りなさい。彼らの思いをあなたの思いと共に引き上げ、あなたが見上げるところ、すなわち罪を負ってくださるイエスに信仰の目を据えさせなさい。彼らに自分たちのあわれな罪深い自己から目を離して、救い主を仰がせなさい。そうすれば勝利が得られる。彼らは世の罪を取り除く神の小羊を自分自身で眺める。彼らは道であり、真理であり、命であられるお方を見る。義の太陽が心の中にその明るい光線を降り注ぐ。強い贖いの愛の潮流が、ひからびて渴ききった魂に注ぎ込まれ、罪人はイエス・キリストへと救われる。

十字架にかかれたキリスト—このことを話し、このことを祈り、このことを賛美しなさい。それは心を砕き、魂を勝ち取る。これこそ、魂をキリストのために集める神の力であり、知恵である。形式的なことや決り文句や単に論争的な主題を示すことは、ほとんど益とはならない。働き人の心のうちにある神の優しい愛は、彼らが働きかける人々によって認められる。魂は命の水に飢え渴いている。空の水がめであつてはならない。もしあなたがこの人々にキリストの愛を表すなら、あなたは飢えている者、渴いている者をイエスに導くことができる。そしてイエスは命のパンと救いの水を彼らにお与えになるのである。(教会への証 6 巻 66, 67)

## 警報を吹きならせ

「あなたがたはシオンでラッパを吹け。わが聖なる山で警報を吹きならせ。国の民はみな、ふるいわななけ。主の日が来るからである。それは近い。」(ヨエル 2:1)

わたしたちの永遠の幸福に関する事柄が、今、わたしたちの注意を引くべきである。わたしたちには天の事柄を第二位におく余裕はない。……神の裁きは地に起こっている。それらは厳粛な警告を発し、「だからあなたがたも用意していなさい。思いがけないときに人の子は来るからである」と言っている。

わたしたちの教会には現代の真理の本当の意味をほとんど知らない者が実にたくさんいる。わたしはこの人たちに時のしるしの成就を軽視しないようにと懇願する。このしるしは終わりが近いことをはっきりと示している。自分の魂の救いを求めていなかったどれほど多くの者がまもなく「刈り入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救われない」と苦い嘆きの声を上げることだろう。

わたしたちは地上歴史の閉じようとしている場に生きている。預言は速やかに成就している。恩恵期間はすぐに過ぎ去ってゆく。わたしたちにはむだにする時間は一瞬たりともない。見張りの最中に居眠りしているのを見つけられないようにしよう。だれも心のうちに、あるいは行動によって「自分の主人は帰りが遅い」と言わないようにしよう。キリストが来られるというメッセージを熱心な警告の言葉のうちに響かせよう。あらゆるところで男にも女にも悔い改めて、来るべき天罰から逃れるように勧めよう。彼らを目覚めさせ、すぐに準備をさせよう。なぜなら、わたしたちは自分たちの前途に何があるかほとんど知らないからである。牧師や信徒たちは収穫を待っている畑へ出ていきなさい。……

主はまもなく来られる。そしてわたしたちは平安のうちに主にお目にかかる用意をしておかなければならない。わたしたちの周囲にいる人々に光をわけ与えるために、全力を尽くす決心をしよう。わたしたちは悲しむのではなく、喜んでいつも主イエスが自分の前にいてくださるようすべきである。……わたしたちは主の来臨の準備をし、待っていなければならない。主にお会いし、主に贖われた者として迎えていただけるとは、なんと栄えあることであろうか。わたしたちは長い間待ったが、わたしたちの信仰は弱くなつてはならない。もしわたしたちが麗しく飾った王にお会いすることさえできれば、わたしたちはとこしえからとこしえまで祝福された者になるのである。わたしは大声で「ふるさとに向かっている」と叫ばずにはいられない気分である。わたしたちはキリストが力と大いなる栄光に包まれてこられ、贖われた者たちを永遠の家郷へと連れて行かれるその時に近づいている。(ビュー・アノド・ヘラド 1903年7月14日)

## 現代に対する神の特別なメッセージ

「夜はふけ、日は近づいている。それだから、わたしたちは、闇のわざを捨てて、光の武具を身に着けようではないか。」(ローマ 13:12)

今の時代には、わたしたちは心にただ一つの目的を持って、神が真理を人々の心に植えつけようと用意してくださったすべての方法を用いるべきである。……真理の知識を広く伝えるために、自分の能力の極限まで熱心に努力するのは、すべてのクリスチャンの義務である。(クリスチャン教育の基礎 201)

創造と贖いによって神のものである人間がみ声に聞き従い、愛情深い従順な子供としてご自分に従うことを、神は長い間待っておられ、今もなお待っておられる。彼らの願いは神のそば近くにおいて、自分たちを照らすみ顔の光を持つことなのである。わたしたちは第三天使のメッセージを世界に伝え、人々に獣とその像とを拝まないようにと人々に警告し、「神の戒めとイエスの信仰を守る」人々の列に入っているようにと勧めなくてはならない。神はこのメッセージがいつ完了するか、あるいは恩恵期間がいつ終了するかをわたしたちに示してはおられない。……滅びようとしている魂のために、いつでも骨折ろうと見張り、働き、待つのはわたしたちの義務である。……

今、ちょうど今こそ、わたしたちが見張り、働き、そして待っているべき時である。……万物の終わりは近づいている。……主の御霊は靈感のみ言葉の真理をとりあげて、それを魂に印する働きをしている。それにより、キリストに従っていると公言する者は、他の人に分け与えることのできる聖なる、清い喜びを持つのである。……

真理を信じると公言する者の実際的な信心のうちに、真理の力についてもっと深く、もっと強く、もっと迫る証が必要である。(レ・ビュー・アノド・ハルト 1894年 10月9日)

わたしたちは心に植えつけられた真理を持ち、それをイエスのうちにあるがままに他の人々に教えるべきである。世界は非常に重大な時代に差し掛かっている。なぜなら人々は自分たちの永遠の運命を決定しつつあるからである。サタンと彼の悪天使たちは、神の律法を無効にしようとたくらみ続け、このようにして人々の魂を罪の苦役の中で虜にしている。地を覆っている暗黒は深まっている。しかし、神と共に謙遜に歩む者は何もおそれる必要はない。(同上)

## 決定の時

「あなたがたの仕える者を今日選びなさい。」(ヨシュア 24:15)

世界は今日狂っている。狂気が男女を覆っており、彼らを永遠の滅びへと急がせている。あらゆる種類の放縦が打ち勝ち、人々が不道德なことに夢中になっているので、警告や勧告に聞き従おうとはしない。

主は地の住民に「あなたがたの仕える者を今日選びなさい」と仰せになる。すべての者は今、自分たちの永遠の運命を決定しつつある。時の厳粛さ、すなわち人類の恩恵期間が終る日の近いことを人々が悟るよう覚醒させられる必要がある。神は地上歴史の終わるまでに5年あるのか、10年なのか、あるいは20年あるのかというメッセージをだれにも与えてはおられない。神はだれにもご自分の再臨のための準備を遅らせる口実を与えておられない。このお方はだれにも不忠実な僕がしたように「わたしの主人は帰りが遅い」と言わせない。なぜなら、それによってその大いなる日のためにわたしたちを準備させようと与えてくださった機会と特権を気にかけないで無視するよう導くからである。神の僕であると公言する者はみな、一日一日が終わりの日であるかのように、このお方の奉仕に携わるようにと召されている。……

人の子が力と栄光の雲に包まれて速やかに来られることを語りなさい。その日を遅らせてはならない。……

一人一人が負うべき重荷がここにある。わたしの罪は許されているだろうか。重荷を負ってくださるお方、キリストがわたしのとがを取り去ってくださっただろうか。わたしはイエス・キリストの義によって精錬された清い心をもっているだろうか。キリストのうちに隠れ家を求めようとしていない魂はわざわいである。どのような方法であろうとその働きから思いをそらし、今だれかの魂を油断させるすべての者はわざわいである。……

心をそらされてはならない偉大な働きとは、神のみ前におけるわたしたちの個人的な立場を良く考えることである。わたしたちの足は千歳の岩の上に立っているであろうか。わたしたちは唯一の避難所に隠れているであろうか。嵐が容赦のない凶暴さで近づいている。わたしたちはそれに直面する備えができていだろうか。わたしたちはキリストが御父と一つであられるようにキリストと一つになっているだろうか。わたしたちは神の相続人、キリストと共同の相続人であろうか。……

キリストの品性がわたしたちの品性であるべきである。わたしたちは自分たちの心が新しくされることにより変えられるべきである。ここにわたしたちの唯一の安全がある。何ものも神から生けるクリスチャンを引き離すことはできない。(ビュー・アンド・ハルト 1900年11月27日)

## 他の人を救うために生きる

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ 9:23)

もっとも広くゆきわたっている罪は、神からわたしたちを引き離し、非常に伝染性を持った霊的混乱を生み出す利己心である。自己否定による以外に主に立ち帰ることはできない。わたしたちは自分では何もできない。しかしわたしたちを強めてくださる神を通して、わたしたちは他の人々に善をなすために生きることができ、この方法で利己心という悪を避けることができる。わたしたちは役に立つ、無私の生活で神にすべてを捧げるという願いを示すために異教の地へ行く必要はない。わたしたちはこのことを家庭で、教会で、またわたしたちが交わる人々や仕事上の付き合いで行うべきである。人生の普通の歩みの中で正しいことは、自己が否定され、自己が征服されているところに存在する。

パウロは「わたしは日々死んでいる」と言うことができた。わたしたちを勝利者にするのは、人生の小さな事柄で日々自己に死ぬことである。わたしたちは他の人々に善をなすという願いによって自己を忘れるべきである。多くの人に、他の人々に対する愛が明らかにかけている。自分たちの義務を忠実に果たす代わりに、彼らはむしろ自分の快樂を追及するのである。

神はご自分に従うすべての者に、自分たちの感化と財産で他の人々を祝福すべきこと、また自分たちの影響力のうちに入ってくる人々の思いや愛情を高めるために、お方の知恵を求めるとはつきりと命じておられる。その知恵は自分たちが全力を尽くすことができるようにする。他の人々のための奉仕の中で、快い満足と、充分な報いとなる心の平和を体験する。他の人々に善を行いたいという気高い、高潔な願いに動かされるとき、人は人生の多方面にわたる義務を忠実に果たすことに、真の幸福を見出す。これは世的な利益よりももっと多くの報いをもたらす。なぜなら義務を果たすのに忠実な、無私の行為はすべて天使に知られており、命の書の中で輝いているからである。

天においてはだれも自分のことを考えず、自分の快樂を求めたりはしない。むしろ、天の純粋な、真の愛から、自分たちの周りにいる者の幸福を求めるのである。もしわたしたちが新しい地で天の交わりを享受したいと願うなら、この地上で天の原則の統治されなければならない。(教会への証 2巻 132, 133)

この世界でなすことのできる最高の働きは、キリストの品性を表す生活によって神に栄光を帰すことである。(同上 6巻 439)

## 命へいたる道

「狭い門からはいれ。滅びにいたる門は大きく、その道は広い。そして、そこからは歩いて行く者が多い。命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない。」(マタイ 7:13, 14)

キリストは狭い道、一步一步が自己否定をもたらす道に入るとわたしたちを召しておられる。主は、わたしたちに永遠の真理という土台の上に立ち、熱心に戦うようにと、しかり、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために戦うように召しておられる。……

天上にある支配や権威、悪の霊が、総力を挙げて真理に対する戦いを起こすその時、すなわちサタンの惑わす力が非常に大きく、できることなら選民をも惑わそうとしている時に近づくにつれ、わたしたちはサタンの策略に無知でいることのないように、識別力が神の啓発によって鋭くされなければならない。……わたしたちに聖天使たちの協力をお与えになることによって神はわたしたちの働きが……成功することを可能にして下さった。しかし、ばらばらの努力では成功はおぼつかない。教会員全員の一致した感化力が求められている。

今日の教会はエノクのように神と共に歩み、世にキリストを表す人々を必要としている。教会員はもっと高い標準に到達する必要がある。天の使者たちは、自己が見えなくなるまで沈んでいる者、すなわち自分の人生が、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである」というみ言葉を成就する生活を送っている者に伝達しようと待っている。教会がこのような男女で構成される時初めて、はっきりしとした、明瞭な光線で、自分の光を輝き出すことができるのである。わたしたちが義の太陽を見る目は、利己主義で曇っている。サタンに自分を支配されている多くのわがままな者たちによってキリストはあらたに十字架につけられている。

すべての者が試みや試練を受けるのは神のみ旨である。それによって神は民が天の王国を統治している律法に忠実かどうかをごらんになるからである。神は最後までサタンが自分を偽り者であり、訴える者、そして殺人者であることをあらわすのをお許しになる。このようにして、ご自分の民の最終的な勝利は、より顕著に、より栄光に満ちて、より完全にして完成されたものになるのである。(レビュー・ワルド 1900年12月4日)

## キリストと協力して

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

終わりは近い! 神は残っている事柄の秩序を整えるよう教会に求めておられる。神と共に働く者として、あなたは他の人々を御国へ自分と共に連れて行く権利を主から与えられた。あなたは神の生ける代理人、また世に対する光の通路となるべきである。そうすれば、あなたの周りには、魂の救いの働きで、あなたを支え、強め、励ますためにキリストから権限を受けた天の御使たちがいるのである。

.....

世から分離し、区別された者でありなさい。すなわち世にあっても、世のものではなく、義の太陽の輝く光線を反映しつつ、純潔で、気高く、汚れのない者となり、信仰によって、地上のすべての大路や小道に光をたずさえて行きなさい。

永遠に遅くなってしまううちに諸教会は目覚めなさい。教会員一人一人は自分の個人的な働きを始め、自分が呼ばれている主の御名を擁護させなさい。堅い信仰と熱心な敬神の念が、怠惰や不信にとってかわるようにしなさい。信仰によってキリストをつかむとき、真理は魂に喜びをもたらし、宗教上の奉仕は退屈でも、興味のないものでもなくなる。……あなたが公言するキリスト教をあなたが実践するとき、あなたは日毎に豊かな経験をするようになる。罪人は改心する。

.....

ああ、すべての者が目を覚まして、自分たちの信仰は生きた信仰であり、生死にかかわる事柄が世界の前にあり、イエスはまもなく来られるということを世に示すとよいのだが。わたしたちが永遠の世界の境界線にいることをわたしたちが信じていることを人々に見させなさい。

神の王国の建設は代理人である人間が不忠実か忠実かによって、妨げられたり、前進したりする。その働きは人間が天と協力しないことによって妨害される。人は「み国を来たせたまえ。み心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈ることはできる。しかし、もし彼らが自分たちの生活の中でこの祈りのとおりに行わないなら、彼らの嘆願は実を結ばない。しかしあなたが弱く、過ちを犯し、罪深い者であっても、主はあなたにご自分との協力を申し出てください。主はあなたに神聖な教えの下に来るようにと招いておられる。キリストと一つになることによって、あなたは神のみわざをなすことができる。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」とキリストは言われた。(教会への証 6 巻 436-438)

## 救い主の代表者

「異邦人の中であって、りっぱな行いをしなさい。そうすれば、彼らは、あなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのりっぱなわざを見て、かえって、おとずれの日に神をあがめるようになる。」(ペテロ第一 2:12)

神はキリストの御名を帯びている者がこのお方を代表することを望んでおられる。……彼らは自分たちが接するすべての人に光を伝えるよう聖化され、精錬された聖なる民となるべきである。……

キリストに従う者は、原則と関心において、世から分離しているべきであるが、世から孤立すべきではない。救い主は神のみ旨によらないことは何事も人々に奨励なさらないが、彼らを向上させ、気高くするために、人々と絶えず交わられた。「また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためにわたし自身を聖別いたします」と主は宣言された(ヨハネ 17:19)。そのように、クリスチャンは人々の間に住むべきである。それによって神の香りが、世を墮落から保護する塩のようになることができるからである。

より高く、より純粋で、もっと高貴な命の力が、わたしたちに非常に必要である。クリスチャンであると公言する者が、どのような実を結ぶのかを世の人々は注目している。……聖書の宗教に有利な、あるいは不利な印象は、絶えずわたしたちと関わりのあるすべての人々の心に与えられている。

そして神と天使たちは見守っておられる。神はご自分の民が自分の生活で、世俗にまざるキリスト教を示すことを望んでおられる。また、自分たちが高く聖なる高地で働いていることを示すよう望んでおられる。自分たちの受け入れた真理が自分たちを天の王の子にしたということをご自分の民が示すのを神は見たいと切望しておられる。このお方は彼らをご自分の無限の愛と憐れみを注ぐことのできる通路にしたいと切望しておられる。

キリストは切なる願いをもって、ご自分の教会にご自身が現されるのを待っておられる。救い主のご品性が、ご自分の民の内に完全に再現される時、そのとき主はご自分のものであると宣言するために来られる。主の来臨を待ち受けるだけでなく、早めるのはすべてのクリスチャンの特権である。主のみ名を告白する者すべてが主の栄光へと実を結ぶなら、全世界にどれほどすばやく福音の種が蒔かれることであろうか。最終的な大収穫はすぐに熟し、キリストが来られるのである。(両親、教師、生徒への勧告 322-324)

## 世が認める品性

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲った邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

神の民を通して、ご自分の王国の諸原則を表すことが神のご目的である。生活と品性のうちに民がこの原則をあらわすことができるように、神は世の習慣や風習や慣わしから彼らを分離させたいと願っておられる。……神の教会であらわされたこのお方の善や恵み、また正義と愛を眺めることによって、世は神のご品性の表れを見るべきである。そして神の律法が生活のうちにこのようにあらわされるとき、神を愛し、恐れ、神に仕える者たちが世にいる他のすべての人々にまさってすぐれていることを世すら認めるであろう。

すべての民にまさってセブンスデー・アドベンチストは敬神の手本となり、心や会話において聖なるものとなるべきである。死すべき者に委ねられた最も厳粛な真理が、彼らにゆだねられている。恵みと力と能力という才能が豊かに備えられている。彼らは天の雲に乗ってこられるキリストの間近い再臨を待ち望んでいる。彼らにとって、その信仰が自分たちの実生活のうちに支配する力となっていないという印象を世に与えるのは、非常に神の名譽を汚すことになる。

サタンの誘惑の力が増しているので、わたしたちが生きているこの時代は神の子らにとって危険に満ちている。だからわたしたちは偉大な教師であられるお方のことを絶えず学ぶ必要がある。そうすることによってわたしたちは確信を持って、正義のうちに一步一步、歩んで行くことができる。素晴らしい光景がわたしたちの前に開かれている。現代生き生きとした証が神の民であると公言する者の実生活であらわされるべきである。そうすればこの時代に、悪がいたるところを支配していても自分の意志をかたわらに置き、神のみ旨を行おうとしている者、すなわち、その心と実生活に神の律法が書きつけられている人々がまだいるということを世の人は知ることができる。……

彼らの思いは清らかで、その言葉は気高く、引き上げる性質のものであるべきである。彼らが行い、口にすすべてのことに、キリストの宗教が織り込まれるべきである。彼らは聖化され、清められた聖なる人々となるべきであり、接する人々すべてに光を伝える者となるべきである。生活で真理を例証することにより、神の民が地上で賞賛されることが神のご目的である。キリストの恵みは、このことをもたらすのに充分である。(両親、教師、生徒への勧告 321, 322)

## 世が必要としている証

「わたしたちの推薦状は、あなたがたなのである。それは、わたしたちの心にしるされていて、すべての人に知られ、かつ読まれている。」(コリント第二 3:2)

内住しておられるキリストの愛が、その人の品性の変化によって、世に対して証されるべきである。恵みの贖う力が、不完全な品性に働きかけて、その品性を均整のとれたものに発達させ、豊かな実りあるものにご自分の民が示すのを主は期待しておられる。

しかし、わたしたちが神のご目的を果たすために、なすべき準備の働きがある。主はわたしたちに疎遠の根である利己心に満ちた心を空にするように命じておられる。主はわたしたちにご自分の聖霊を豊かに注ぎたいと切望しておられるので、自己放棄によって、道をきれいにしなさいとお命じになる。自己が神に明け渡されるとき、自分たちのキリストに似ていないつまりかせる石が他の人の道をふさいでいるのに気づくようわたしたちの目が開かれる。神はこれらのものをすべて取り除くようにとわたしたちにお命じになる。神は、「だから、互いに罪を告白し合い、またいやされるようにおたがいのために祈りなさい」(ヤコブ 5:16)と仰せになる。そうすれば、ダビデが罪を告白した後、得た保証をわたしたちも持つことができる。「あなたの救の喜びをわたしに返し、自由の霊をもって、わたしをささえてください。そうすればわたしは、とがを犯した者にあなたの道を教え、罪びとはあなたに帰ってくるでしょう。」(詩篇 51:12,13)とダビデは祈った。

神の恵みが心の中を支配するとき、魂は信仰と勇気と、キリストのような愛の雰囲気の中に囲まれ、その雰囲気はそれを吸い込むすべての人の霊的命を活気づけるのである。……キリストの許しの愛にあずかるすべての者、神の御霊によって啓発され真理に改心した者はすべて自分が持っているこれらの尊い祝福のゆえに、自分が接するすべての魂に対して負債があることを感じる。聖職に任命された牧師が近づくことのできない魂に影響を与えるために、主は心の謙遜な者を用いられる。彼らはキリストの救いの恵みをあらわす言葉を語るよう動かされる。

他人を祝福することによって、彼らは自分が祝福される。神はわたしたちが恵みを分け与える機会を与えてくださる。そうすることにより、わたしたちをもっと多くの恵みで、再び満たしてくださることができるからである。神が備えてくださった才能と能力を用いて、神のためにその代理人が働くとき、希望と信仰が増し加わる。このお方はご自分と共に働く神の代理人をもっておられる。(教会への証 6巻 43, 44)

## 神が不足を補われる時

「わたしたちはまた、神と共に働く者として、あなたがたに勧める。神の恵みをいたずらに受けてはならない。」(コリント第二 6:1)

わたしたちは世界の至る所で、神の働きにおいて共労者となるべきである。救われるべき魂のいるところではどこでもわたしたちは助けを与え、それによって多くの息子、娘たちが神のところに連れてくるようにすべきである。終わりは近い。そしてこのゆえに、すべての委ねられた能力とその働きの助けとなるあらゆる方法を最大限に活用すべきである。……

天使たちは終わりが近づいているのを見ながら、恵みの最後のメッセージを委ねられた者のうち、非常に多くの者が群れ集まり、自分自身の魂の益のために集会に出席しても、説教が少ないと不満を感じ、しかも他の魂の救いについてはほとんど重荷を負わず、働きもしないでいるのを、どのような思いで見ているであろうか。生きた信仰によって本当に、キリストと結びついている者はすべて神の性質にあずかる者となる。彼らは絶えずキリストから霊的生命を受けており、沈黙していることはできない。

生命は常に活動することでおのずと表れる。もし心臓が生きているなら、体の隅々まで生きた血を送る。心が霊的生命で満たされている者はその生命をあらわすようにと促される必要はない。神の生命が恵みの豊かな流れのうちに彼らからあふれ出るのである。彼らが祈るとき、語るとき、また働くとき、神は栄光をお受けになるのである。……

その働きがもっとも偉大で、もっとも永続性のある結果をもたらすのは、もっともすぐれた、もっとも才能のある者による働きではない。もっとも有用な働き人とはだれのことであろうか。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うてわたしに学びなさい」という招きに応じる人である。

神に知性というタラントを委ねられた人たちがもし、この賜物を神の栄光のために使うのを拒むなら、試練や苦難を与えた後で神はこの者たちをつまらない想像にふけるにまましておかれ、それほど豊かに授かっているようには見えない人、あまり自信のない人々を用いられる。そして神は弱い者を強い者とされるのである。なぜなら弱い者は自分の力ではすることのできない事柄を神が自分のためにしてくださると信じ、信頼しているからである。神は全身全霊を込めた奉仕をお受け入れになる。そして不足をご自身で補ってくださいるのである。(教会への証 6 巻 440, 443, 444)

天使たちは、あなたが世の人々に天の神についてどんな証をするかに耳を傾けている。(キリストへの道 87)

## 力ある教え

「そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教を宣べて言った、『悔い改めよ、天国は近づいた』。」(マタイ 3:1, 2)

荒野の生活でバプテスマのヨハネは神について教えを受けた。彼は自然の中で神の啓示を学んだ。聖霊の導きのもとに彼は預言の巻物を研究した。昼も夜もキリストが彼の学ぶべきお方であり、瞑想すべき課題であって、それは精神と心と魂が輝かしい未来像で満たされるまで続いた。

ヨハネは麗しい天の王を見上げた。そして自己は見えなくなってしまった。彼は神聖であられる至高者を見つめ、自分が無能で価値のない者であることを知った。彼が宣言しなければならないのは、神のメッセージであった。彼は神の力と神の義にしっかりと立たなければならなかった。彼は天の使者として出て行く準備ができていた。彼は人を恐れなかった。神を見上げていたからである。彼は王の王である方のみ前に震えながらひざまずいていたので、地上の君主の面前に恐れることなく立つことができた。

ヨハネは凝った議論や精密な理論抜きで自分のメッセージを宣言した。驚くべき、厳しい、けれども希望に満ちたヨハネの声が荒野から聞こえてきた。「悔い改めよ、天国は近づいた」(マタイ 3:2)。その声は新しい、不思議な力をもって人々を動かした。全国民が覚醒させられた。大勢の者が荒野へ群れをなして行った。……

現代、天の雲に乗ってこられるキリストの再臨に先立って、ヨハネが果たしたのと同じ働きがなされるべきである。主の大いなる日に立つために人々を準備させる者を神は召しておられる。……キリストがまもなく来られるということを信じている民として、わたしたちは、「あなたの神に会う備えをせよ」(アモス 4:12)と伝えるメッセージを持っている。わたしたちのメッセージはヨハネのメッセージのように、率直でなければならない。ヨハネは王たちをその悪のゆえに譴責した。自分の生命が危険にさらされても、彼は神のみ言葉を宣言するのをためらわなかった。そして現代におけるわたしたちの働きも同じく忠実になされなければならない。

ヨハネが伝えたのと同様のメッセージを伝えるために、わたしたちは彼のような霊的経験をもたなければならない。同じ働きがわたしたちのうちに働かなければならない。わたしたちは神を見つめなければならない。そうすれば、神を見つめることによって自己を見失ってしまうのである。(教会への証 8巻 331-333)

## 見よ、神の小羊

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」(ヨハネ 1:29)

ヨハネは生まれつき人間に共通の欠点や弱さを持っていた。しかし神からの愛の接触が彼を変えた。キリストの伝道が始まった後、すべての人が新しい教師に従って行ったことについてヨハネの弟子たちが不満な心で彼のところへ来たとき、ヨハネはメシヤと自分との関係をどれほどはっきりと理解しているか、また彼がそのために道を備えたそのお方をどれほど喜んで歓迎しているかを示した。

「人は天から与えられなければ、何ももの受けることはできない。『わたしはキリストではなく、そのかたよりも先につかわされた者である』と言ったことをあかししてくれるのはあなたがた自身である。……こうして、この喜びはわたしに満ち足りている。彼は必ず栄え、わたしは衰える。」(ヨハネ 3:27-30)。

信仰をもって贖い主を見ることにより、ヨハネは自己放棄の高さにまで上った。彼は人を自分に引きつけようとしなくて、人の思いを高く、高く、彼らが神の小羊に信頼するところまで引き上げた。ヨハネは自分をただ荒野で呼ばれる者の声とした。今彼は喜びをもって、沈黙することと、世に知られないことを受け入れた。それによって、すべての者の目は生命の光であるお方へ向かうのであった。

神のための使者として自分たちの召しに忠実な者は自分の名誉を求めたりはしない。自分への愛はキリストへの愛に飲み込まれてしまう。彼らはバプテスマのヨハネが「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)と言ったように、宣布することが自分の働きであることを認める。彼らはイエスを掲げる。そしてイエスと共に人間も上げられるのである。……

自己を空にした預言者の魂は、神の光で満たされた。……彼は救い主の栄光に対して証を担った。……キリストに従う者はみな、キリストのこの栄光にあずかるべきである。……わたしたちが快く自己を空にする時だけ、天の光を受けることができる。わたしたちがすべての思いをとりこにしてキリストに服従させることに同意する時のみ、わたしたちは神のご品性を認め、信仰によってキリストを受け入れることができる。これを行うすべての者に対して聖霊は限りなく与えられる。キリストのうちに「満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたはキリストにあって、それに満たされているのである」(コロサイ 2:9, 10)。(教会への証 8 巻 333, 334)

## 改革するようにとの神のご要求

「彼はエリヤの霊と力をもつて、みまえに先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせて、整えられた民を主に備えるであろう。」(ルカ 1:17)

バプテスマのヨハネは主の道を備え、人々に義人の思いを持たせるためにエリヤの霊と力をもつて前進した。彼はこの終わりの時代に生きている人々、すなわち、キリストの再臨に道を備えるために人々の前に提示すべき聖なる真理を委ねられた者たちの象徴であった。……

ヨハネがキリストの初臨に道を備えるためにエリヤの霊をもつて来たように、キリストの再臨のために道を備えるべき人々は、忠実なエリヤとして表されている。改革という大いなる主題が世を激しく動かすべきであり、一般の人の心がかきたてられるべきである。万事における節制がこのメッセージと結びつけられ、神の民を偶像崇拜や大食、また衣服その他におけるぜいたくから向き直らせなくてはならない。

神が特に導き、祝福される義人に要求されている自己否定や謙遜、また節制が、この墮落した時代に生きている人々の度のすぎた健康を損なう習慣と対照をなして、人々に示されるべきである。神は手が体とつながっているように、健康改革が第三天使のメッセージと密接につながっていることを示しておられる。この大切な主題を無視することほど、身体と道徳の墮落の大きな原因となるものはない。食欲や情欲にふけて、自分たちがやめるつもりのない罪深い放縦を認めたくない気持ちから、光に対して目を閉じる者は、神のみ前に罪を犯している。……

み摂理は、神の民を世のぜいたくな習慣から、すなわち食欲と情欲の放縦から、万事における自制心と節制という土台の上に自分たちの立場を取るよう導いておられる。神が導いておられる民は特別な民となる。彼らは世の者のようではなくなる。かえってもし彼らが神の導きに従うなら、神のご目的を成し遂げ、神のみ旨に自分たちの意志を明け渡すようになる。キリストがその心のうちに住まわれる。……使徒が言っているように、あなたの体は聖霊の宮となるのである。(教会への証 3 卷 61-63)

## 健やかな生き方を推進する

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である。」(ローマ 12:1)

身体や精神や道徳上の活力を自分から奪う習慣にふけり続けていながら、人が自分を神に受け入れられる、生きた、聖なる供え物として捧げるのは不可能である。使徒はまた次のように言っている。「あなたがたはこの世と妥協してはならない。むしろ心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである」(ローマ 12:2)。(両親、教師、生徒への勧告 23)

わたしたちは義や品性の清らかさ、そしてとりわけ恵みのうちに成長することを妨害する世界にいる。わたしたちが見るところはどこも、汚れと腐敗、また醜さと罪が見える。不死という賜物を受ける時に先立ってわたしたちのうちに完成されていなければならない働きに対して、これらすべてのことが、どれほど妨害していることであろうか。神に選ばれた者は、この最後の時代に自分の周りにあふれている堕落のただ中で、汚れなく立たなければならない。彼らの体は聖なるものとされ、精神は純潔にされなければならない。この働きが完成されなければならないのであれば、ただちに、熱心に、そして十分に理解してとりかからなければならない。神の御霊が完全に支配し、すべての行動に感化力を持つべきである。

健康改革は、人々を主の来臨にふさわしい者とする大いなる働きの一分野である。……男も女も墮落した食欲や強い情欲にふけることによって自然の法則を破るときは、必然的に神の律法を犯しているのである。それゆえ神は健康改革の光がわたしたちを照らすことをお許しになった。それによって神がわたしたちの存在そのものに植えて下さった律法を破る罪深さに気づくことができるためである。……

自然の法則を明らかにし、その法則に従うように説き勧めるとは、第三天使のメッセージに伴う働きである。……神は、この主題が強く訴えられ、この主題を調べるために一般の人々の心が深くかきたてられるよう計画しておられる。なぜなら、男にとっても、女にとっても、罪深く、健康を破壊し、頭脳を弱める習慣の支配力の下にありながら、聖なる真理を正しく認識することは不可能だからである。……

神が健康改革の上に与えてくださった光を大切に心にとめる者は、真理を通して聖化され、不死に適した者となる働きにおいて、大切な助けを得るのである。(同上 20-22)

## 自分を忘れる徳

「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。」(ガラテヤ 2:19, 20)

信仰によってパウロはキリストの恵みを自分のものとし、この恵みが彼の魂の必要を満たした。信仰によって彼は天来の賜物を受け入れ、光を切望する魂にこれを分け与えた。これがわたしたちの必要とする経験である。……この信仰のために祈りなさい。そのために努力しなさい。神があなたにこの信仰を与えてくださることを信じなさい。

この世でなすべき大いなる働きがある。この世は夢の国ではない。わたしたちの前には生きた現実がある。どちらを向いてもサタンの力のあらわれが見られる。回復し、向上させるために働いておられるお方と協力しよう。そして、キリストのために働く者は、すべての力の源で自分の力を補充しなければならないことを忘れないようにしよう。……クリスチャンは思いの力、意志の堅固さ、そして神の御言の研究から来る知識を必要としている。彼らはずまらないことで自分たちの心を一杯にする余裕はない。彼らは日々霊的な力で新しくされなければならない。

「わたしは柔和で心のへりくだった者である」と仰せになったお方から学びなさい。このお方のことを学ぶなら、あなたは平安を見いだす。日毎にあなたは神の事柄について経験を、日毎に神の救いの偉大さと神との一致の栄光に気づく。あなたは絶えずキリストのような生き方をより良く学び、絶えずもつと救い主に似たものへ成長していく。

もしわたしたちが自己に死ぬなら、もしキリストがわたしたちにとって何でありえるか、またわたしたちはキリストにとって何でありえるかについて自分たちの概念を広げ、クリスチャン仲間の緊密な絆のうちに互いに一致するなら、神はわたしたちを通して力強く働かれる。そのときわたしたちは真理を通して清められる。わたしたちは実際に神によって選ばれ、このお方の御霊によって支配を受ける。日々の生活がわたしたちにとって貴重なものとなる。なぜなら、他の人々を祝福するためにわたしたちに委ねられた賜物をわたしたちが用いる機会を日々の生活で見つけるからである。(ビュー・アンド・ワールド 1907年5月30日)

わたしたちは他の人々への愛から出た奉仕により自己を忘れなければならない。……わたしたちは自分たちが行う親切な行為を覚えていないかもしれない。……しかし魂の救いのためになされたすべての行動、また神の子らを慰めるために語ったすべての言葉を永遠がその輝きのうちにすべてを明らかにする。そしてキリストのためになされたこれらの行為は永遠にわたってわたしたちの喜びの一部となるのである。(天国で 230)

## 神の器である青年

「人が若い時にくびきを負うことは、良いことである。」(哀歌 3:27)

神は、若さという活力と強さのうちにある青年たちに、ご自分と自己否定、犠牲、また苦難を共にするよう召しておられる。もし彼らがこの召に応じるなら、神は彼らを、ご自身がそのために死なれた魂を救うためにご自分の器となさるのである。しかし、神は彼らにその代価を勘定させ、彼らが十字架にかかられた贖い主に奉仕する条件について十分な知識を持った上でその働きを始めさせたいと思っておられる。……

わたしたちの最初の仕事は、自分の心を神と調和させることであり、そうすればわたしたちは他の人々のために労する準備ができる。昔、わたしたちの熱心な働き人たちは自分たちの心を深く探っていた。彼らは互いに勧告しあい、謙遜に一致し、天の導きを求めて熱心に祈った。……キリストの来臨はわたしたちが信じた時よりも近づいている。一日過ぎていくたびに、世に対する警告のメッセージを宣布する日が一日少なくなるのである。今日、神へのもっと熱心となりなせがあり、もっと謙遜で、もっと清らかな、もっと強い信仰があればよいのに。(教会への証 5 巻 87,88)

わたしたちは主人であるお方のためになすべき働き、誤謬の暗闇にいる人々に神のみ言葉を聞く偉大な働きがある。若い友よ、あなたは聖なる義務を負っているかのように行動しなさい。あなたは聖書を学んでいる研究者として、あなたのうちにある望みについて説明を求めるすべての人にいつでも説明する用意をしていなさい。真のクリスチャンの尊厳をもって、自分が真理、すなわち聞くべき人々の益となる真理を持っていることを知っているという証拠を示しなさい。もしこの真理が魂に織り込まれるなら、表情や態度に、また静かな、気高い落ち着きや、クリスチャンだけが持つことのできる平安のうちにおのずとあらわれる。本当に謙遜であり、また、福音の中で明らかにされた真理によって心が広くされる人々は、感じられる感化力を持っている。彼らは思いと心に感銘を与える。(同上 401)

わたしは十字架を負って、イエスに従うように導く清い宗教の精神を注ぎ込まれた若者を見ること以上に高い望みは持っていない。原則に支配され、純潔と義の衣をまとったキリストの若い弟子たちよ、前進しなさい。あなたがたの救い主があなたがたのタラントに最も適した立場に、また最も役に立つことのできる場所へ導いて下さる。義務の道で、あなたがたは確かに自分の日のために十分な恵みを受けることができる。(同上 87)

## すべての世代のための働き

「父たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが、初めからいますかたを知ったからである。若者たちよ。あなたがたに書きおくれたのは、あなたがたが強い者であり、神の言があなたがたに宿り、そして、あなたがたが悪しき者にうち勝ったからである。」(ヨハネ第一 2:13)

青少年が役立つ努力をする機会を見つけることのできる活動分野が沢山ある。……この福音の終幕の働きに従事すべき広大な分野がある。そして、かつてなかったほど、その働きには一般の人々からの助け手が積極的に参加すべきである。若い人も年配の人も田畑から、ぶどう畑から、そして仕事場から呼び求められている。そして主人であられるお方はご自分のメッセージを伝えるために彼らを送り出されるのである。この人たちの多くはほとんど教育を受ける機会がなかった者であるかもしれないが、キリストは彼らの内にご自分の目的を成就することを可能にする資格をお認めになる。もし彼らとその働きに自分の心を注ぎ込み、学ぶ者であり続けるなら、主は彼らをご自分のための働きにふさわしい者となさる。……

あなたのタラントが多かろうと少なかろうと、あなたが持っているものは、委託物として所有しているにすぎないことを覚えていなさい。このようにして神はあなたをテストしておられ、あなたが自分を忠実な者であると証明する機会を与えてくださっているのである。あなたは自分の能力すべてについて神に対して負債がある。あなたの心と体と魂の力は神のものであって、これらの力は神のために使われるべきである。あなたの時間、あなたの影響力、そして能力と技術、すなわちすべてのものを与えてくださるお方に対して、あなたは報告をしなければならぬのである。(ユース・インストラクター 1908年3月3日)

神のみ言葉を読むことや祈りの時間に喜びと幸福を見出す青少年は生命の泉であられるお方から飲み続けることによって、絶えず活気づけられる。彼は道徳上の美しさの高みに達し、また他の人々が想像できない雄大な思想に到達する。……このように自分の魂を神と結びつける者は、神からご自分の息子、娘として認められる。彼らは絶えず高く、ますます高く成長し、神と永遠の概念とをますますはっきりと得ながら、ついに主が彼らを世に対する光と知恵の通路とするに至る。(教会への証 4巻 624)

正しく訓練されたわれらの青少年たちから成るこのような働き人の軍勢があたえられるとき、十字架につけられ、よみがえり、まもなくおいでになる救い主のメッセージは、いかにすみやかに全世界に宣べ伝えられることであろう。いかにすみやかに終わりが一苦難と不幸と罪の終わりが、もたらされることであろう。(教育 320)

## なぜそれほど多くの者が怠けているのか

「あなたがたは……エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。(使徒行伝 1:8)

最初の弟子たちに与えられた責務に、各時代の信徒があずかってきた。福音を受けた者はみな、世に伝えるべき尊い真理をさずけられてきた。神の忠実な民はつねに積極的な伝道者であり、自分たちの資源を神のみ名をあがめるために用い、そのタラントを神への奉仕に賢明に用いたのであった。……

神の教会の会員はよきわざに熱心で、世俗的な野心を離れ、良い働きをしながら巡回されたキリストのみ足跡を歩まなければならない。また、同情とあわれみに満ちた心をもって、助けの必要な人々のために働き、罪びとに救い主の愛を教えなければならない。そうした働きには骨の折れる努力がいるが、その報いは大きい。まじめな決心をしてこのわざに携わる者は、救い主に魂が導かれるのを見ることができる。……

「御霊も花嫁も共に言った、『きたりませ』。また、聞く者も『きたりませ』と言いなさい」(黙示黙 22:17)。この招待をせよとの命令は、すべての教会に出されたものである。この招待を聞く者はみな「きたりませ」と言って、この招きを丘から谷へこだまさせなければならない。……

すでに救いのおとずれを聞いた幾百、いや、幾千もの人々は、活動的な奉仕に携わることができるはずなのに今もなお、市場で何もせずぶらぶらしている。そのような人々にキリストは「なぜ、何もしないで、一日中ここに立っていたのか」と言われ、更に「あなたがたも、ぶどう園に行きなさい」と言っておられる(マタイ 20:6,7)。この招きになぜもっと多くの人々が応じないのか。彼らは聖職に立たないのだから、義務を免じられているとでも思っているのだろうか。幾千もの献身した信徒たちのしなければならない大きな仕事は、聖職以外にあることを彼らは知らなければならない。

奉仕の精神が教会全体にゆきわたって、教会員が残らず各々の才能に応じて主のために働くのを、神は長いあいだ待っておられる。福音事業の任命を完成するために、神の教会の会員が、光の必要な自国や外国の伝道地で、それぞれ定められた働きをするならば、まもなく全世界に警告がゆきわたり、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの世にもどってこられるのである。「この御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイ 24:14)。(患難から栄光へ上巻 115-116)

## わたしたちの宝はすべて神のために

「ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」(マタイ 10:8)

神の惜しみない賜物から人が受けるものはすべて、なお神に属している。神が地上の価値あるものや美しいものの中で与えておられるものは何でもわたしたちを試すために、すなわち神に対するわたしたちの愛の深さと神の恩恵に対するわたしたちの感謝の深さを計るために、わたしたちの手に置かれるのである。それが富という宝であろうと知性という宝であろうと、その宝はイエスの足元に、自発的な供え物として置くべきである。(教会への証 5巻 736)

「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」と弟子たちに命じることによって、キリストは人々をご自分の恵みの知識を広げる働きに任命された。しかし、ある人たちが宣べ伝える一方で、主は地上でご自分の目的をささえるための捧げ物を……他の人々に呼びかけておられる。(同上 9巻 255)

すべての者が多額の献金ができるわけではなく、すべての者が偉大な働きをしたり、素晴らしい行為ができるわけではない。しかしすべての者が自制心を働かせ、救い主の私心のなさをあらわすことはできる。ある者は主の金庫にたくさんのお金を持つてくることができ、他の者はごくわずかの金額しか持つてくることできない。しかし真心から持つてくる贈り物はすべて、主に受け入れられる。(同上 54,55)

自制心のある行動によって、神のご目的のためにどれほど多くの金額が貯えられるかを知って、多くの者は驚くであろう。捧げ物という行為によって貯えられた小額のお金は自己の克己を必要としない多額の贈り物よりも、神のご目的を成し遂げるのにもっと役に立つ。(同上 157, 158)

物惜しみをしない精神は天の精神である。キリストの自己犠牲の愛は十字架上であらわされている。人間が救われるために、キリストはご自分が持つておられたものをすべて与えられた。そして、ご自身までも与えられた。キリストの十字架は聖なる救い主に従うすべての者の慈善心に訴えている。そこに例証されている原則は与え、与えることである。……世俗の原則は得て、得ることである。……

キリストの十字架から輝いている福音の光は利己心を譴責する。……神の民の多くは世俗とむさぼりによってわなにかけられる危険がある。彼らは自分たちの財産に対して要求が増えるのは神の恵みであることを理解すべきである。……神はこのようにして、地上でご自分の祝福を分け与えるための手段として人を用いられる。神は人が慈悲深く、寛大な品性であられる創造主のようになり、ついにはキリストと共に永遠の名誉ある報いを得る者となるために、慈善という制度を設けられた。(同上 254, 255)

## 二重の生活

「わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。」(ヨハネ第一 1:3)

わたしたちの働きにおいて、神との交わりの実際的結果ほど必要なものはない。わたしたちは救い主にある平安と安息を有していることを日常生活の上に表わさなければならない。心のうちにあるキリストの平安は、顔に輝き出る。……神との交わりは品性と生活を高尚にする。そして、初代の弟子たちのように、わたしたちもイエスと共に居ることを人々は認めるのである。それは他のどんなものも与えることができない力を働き人に与える。働き人はこの力を失ってはならない。

わたしたちは二重の生活をしなければならない。すなわち、思想と行動の生活、黙祷と熱心な働きの生活である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 497)

神に訓練されている者はすべて自分自身の心や自然や神とまじわる静かな時が必要である。……わたしたちは各自その心に、神がお語りになっているのをきかねばならない。他のすべての声が静まって神の前でわたしたちが静かに待つとき、心の静けさは神のみ声をいつそう明りように聞えさせてくれる。神は「静まって、わたしこそ神であることを知れ」とお命じになる(詩篇 46:10)。神のためになすすべての働きには、これが有効な準備となる。こうして心を新たにした者は、忙しい人々の間にあってもまた、人生のはげしい活動の中にあっても、光と平安の雰囲気にかこまれる。そうして体力も精神力も、新たな力を増し加えられる。その生活はよいかおりを放ち、人々の心を感じさせる神の力を表わすのである。(同上 33)

祈りのひとときにおいてさえ、真に神と交わる祝福を受けられない人が多い。彼らはあまりに性急である。彼らは急ぎ足でやってきて、キリストの愛の座に割り込み、聖なる囲いの中にしばらく休息するが、しかし勧告を待ち望む気持ちが無い。彼らは天来の教師と共にとどまる時間を持つとしない。そうして重荷を負ったまま働きに帰って行くのである。

このような働き人は、力の秘訣を学ばないかぎり決して最高の成功に到達し得ないであろう。知・徳・体の能力が一新されるためには、考え、祈り、神のみそばに仕える時間をもたなければならない。みたまの力によって高められなければならない。この力を受けるときに、新鮮な生命がよみがえるであろう。(教育 307, 308)

## 間違った熱心

「わたしは、彼らが神に対して熱心であることはあかしするが、その熱心は深い知識によるものではない。」(ローマ 10:2)

目標や目的がなく、深い知識によらず、その活動が盲目的で、結果が有害な、そうぞうしい熱心がある。これはクリスチャンの熱心ではない。クリスチャンの熱心は原則に支配されており、発作的なものではない。この熱心はまじめで深く、強く、魂全体を占めるものであつて、道徳の面で敏感さを養うよう促すものである。魂の救いと神の王国への関心をもっとも重要な事柄である。魂の救いと神の栄光よりもっと熱心に呼び求める対象があるだろうか。ここに軽視することのできない、よく考えるべきことがある。この二つのことは永遠と同じ重みを持つもので、永遠の運命がかかっている。男も女も禍福を決定しつつある。クリスチャンの熱心は言葉で消耗してしまうのではなく、活力と力をもって感じ、活動するのである。しかし、クリスチャンの熱心は、見られるために活動することはしない。すべての努力を特徴づけているのは謙遜であり、これがすべての働きに見られるのである。クリスチャンの熱心は、まじめな祈りと謙遜へと導き、また家庭の義務に忠実な者とさせる。家庭では優しさと愛、慈悲の心と思いやりが見られる。そしてこれらは永遠にクリスチャンの熱心さの実である。……

ああ、魂の価値を感じる者は、なんと少ないことであろう。魂をキリストの知識へと導くために犠牲を払っている人は、なんと少ないことであろう。多く語られており、滅び行く魂のための多くの愛が公言されているが、言葉は安価なものである。求められているのは、まじめなクリスチャンの熱心、すなわち何かを行うことによって表す熱心さである。すべての者は今自分自身のために働かなければならない。そして彼らの心にイエスがおられるとき、彼らは他の人々にそのお方のことを告白するのである。キリストが心を占めている魂は、ナイヤガラ滝が落下するのを止められないように、キリストのことを告白するのを止めることはできない。(教会への証 2 巻 232, 233)

永遠の命がすべてのクリスチャンの最も深い関心となるべきである。救い主の偉大なる計画で、キリストと天のみ使いたちとの共労者となりなさい。この働きに比べえるものがあるだろうか。救われたすべての魂から栄光が神へと集まってくる。そしてその栄光は救われた者と彼を救う器となつた者へと照り返すのである。(同上 232)

## 確かな土台

「しかし、神のゆるがない土台はすえられていて、それに次の句が証印として、しるされている。『主は自分の者たちを知る』また『主の名を呼ぶ者は、すべて不義から離れよ。』（テモテ第二 2:19)

主は鋼鉄のように真実で、みかげ石のように信仰に堅く立っている民をもっておられる。この民は世における主の証となり、備えの日における特別で栄光に満ちた働きを行うための主の器となるのである。……

熱心に、また真剣に真理を説いている牧師たちが背教者となって、敵の列に加わるかもしれない。しかしこのことが神の真理を偽りに変えるのであろうか。「しかし、神のゆるがない土台はすえられてい」と使徒は述べている。人間の信仰と感情は変わるかもしれないが、神の真理は決して変わることはない。……

わたしたちが真理を持っているというのは、神が生きておられるのと同じく確かである。そしてサタンは彼の技巧といまわしい力をもってしても神の真理を偽りに変えることはできないのである。大敵が最大限の努力をして神のみ言葉の効果をなくそうとしている間、真理は燃えつづけるランプのように前進しなければならない。

主はわたしたちを呼び出され、ご自分の驚くべき憐れみを受ける者とされた。わたしたちは背教者たちのおしゃべりに喜ぶのだろうか。わたしたちはサタンと彼の仲間の側に立つのを選ぶのだろうか。神の律法の違反者に加わるのだろうか。むしろ、「主よ、わたしとへびとの間に恨みを置いてください」と祈ろう。もしわたしたちがサタンの闇の働きに対して敵意を持たないなら、彼の強力な軍勢はわたしたちを取り囲み、彼の毒牙はすぐにでもわたしたちの心臓に打ち込む用意ができています。わたしたちはサタンのことを、死をもたらず仇敵であると考えべきである。わたしたちはキリストのみ名で彼に抵抗すべきである。わたしたちの働きはまだ前進している。……キリストのみ名を名乗る者はみな、義のよるいを身につけなさい。……

わたしたちはなぜ信じているかを自分のために知らなければならない時が来ている。……来るべき時に向かって、自分のために良い土台を築いておこう。そうすればわたしたちは永遠の生命をつかむことができる。わたしたちは自分自身の力ではなく、わたしたちの復活された主のみ力によって働かなければならない。わたしたちはイエスのために何をし、また何をやる勇気があるのだろうか。（教会への証 4 巻 594-597）

## 天国はあなたを待っている

「父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたをつかわす。」  
(ヨハネ 20:21)

使徒たちについてはこう書かれている、「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった」(マルコ 16:20)。キリストが弟子たちをつかわされたように、今日も、主はご自分の教会の信者たちをつかわされる。使徒たちに与えられていたのと同じ力が彼らのために与えられる。神を自分たちの力とするとき、神は彼らと共に働いて下さり、彼らの努力はむなしくなることはない。彼らが携わっている働きは、神が印を押されているものだとすることを、彼らに認識させよう。神はエレミヤに言われた、「『あなたはただ若者にすぎないと言ってはならない。だれにでも、すべてわたしがつかわす人へ行き、あなたに命じることをみな語らなければならぬ。彼らを恐れてはならない、わたしがあなたと共にいて、あなたを救うからである』。それから主はみ手を伸べて、しもべの口につけ、言われた、『見よ、わたしの言葉をあなたの口に入れた』」(エレミヤ 1:7-9)。そして神はわれわれが、神の聖なるみ手がくちびるに触れたことを感じながら、与えられたみことばを語るために出て行くようにと命じておられる。

キリストは教会に神聖な責任をお与えになった。教会員はそれぞれ、神がその恵みの富と、計り知れないキリストの富とを世にお伝えになる器とならねばならない。世の人々に、キリストのみたまと品性をあらわす器ほど、キリストが望んでおられるものはない。人間を通して救い主の愛があらわされることほど、世が必要としているものはない。全天は、神がキリスト教の力をあらわすことがおできになる男女を待っている。

教会は、真理を宣べ伝えるための神の機関であって、特別な働きをする力を神から与えられている。もし教会が神に忠実であり、神のすべての戒めに従うなら、教会には神の計り知れない恩恵が内住するであろう。教会が真実に神への忠誠をつくり、イスラエルの神、主をあがめるとき、どんな勢力もこれに対抗することはできない。

神とそのみわざに対する熱意が弟子たちを動かし、偉大な力を発揮して福音をあかしさせた。われわれも同じ情熱を心に燃やし、あがないの愛の物語を、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの物語を語る決意をすべきではないだろうか。救い主の来臨を待ち望むばかりでなく、これを早めることがすべてのクリスチャンの特権である。(患難から栄光へ下巻 307, 308)

## 研究 22

## 三重のメッセージ



## もうひとりの御使のメッセージ

## Part 1

## 強められた第三天使のメッセージ

「これまでに書かれた事からは、すべてわたしたちの教のために書かれたのであって、それは聖書の与える忍耐と慰めとによって、望みをいだかせるためである。」(ローマ 15:4)

「この時代のクリスチャンの経験は、昔のイスラエルの旅路に非常によく似ている。」(教会への証一巻 284)

「昔のイスラエルの罪は、表明された神のみ旨を無視して、聖化されていない心のおもむくままに自分自身の道に従ったことにあった。現代のイスラエルは急速に彼らの足跡に従っており、主のご不興は間違いなく彼らの上にあるのである。」(教会への証 5 巻 94)

「キリストの時代に人々の心のうちにあった最大の欺瞞は、真理にただ同意することが義であるということだった。真理を理論的に知っているということだけでは魂を救うのに不十分であることが、人間のあらゆる経験を通して証明された。それは義の実を生じない。……彼らは、自分たちが世界で最も偉大な宗教家であると思っていたが、彼らのいわゆる正統派的な信仰が、彼らに栄光の主を十字架につけさせたのであった。

同じ危険が今も存在している。多くの者は、ある神学上の教義に同意しているからというだけのことで、自分は当然クリスチャンだと思っている。だが彼らは、真理を実生活に持ちこまなかった。彼らは真理を信じていなければ、愛しても

いなかった。したがって彼らは、真理のきよめを通して与えられる力と恩恵とを受けなかった。」(各時代の希望中巻 16)

「ユダヤ人の最大の罪は、現在の機会をなおざりにし、拒否した罪であった。イエスが今日ご自分に従うと公言する人々の状態をご覧になるとき、あさましい忘恩、虚しい形式主義、偽善的な不誠実、パリサイ的な誇りや背信を目にされるのである。」(教会への証 5 巻 72)

「ユダヤの指導者たちは、教えを必要としないほど賢く、救いを必要としないほど正しく、キリストから来る名誉を必要としないほど高くあがめられていると思っていた。救い主は、彼らが誤用していた特権と、彼らが軽視していた仕事を他の人々にゆだねるために、彼らに背を向けられた。神の栄光が現わされ、神のみことばは確立されなければならない。」(患難から栄光へ上巻 8)

「外からの反対は、神の民、すなわちこのお方の戒めを守っている民の信仰を曇らせる原因とはならない。純潔と真理を实践せずなおざりにすることが、神のみ霊を悲しませ、彼らを弱めるのである。なぜなら神が彼らのただ中におられず、祝福なされないからである。内側の墮落こそ、神の告発をエルサレムの上にもたらしたように、この民の上にもたらずのである。」(ヘクテッド・メッセージ 2 巻 378)

「わたしの前にセブンスデー・アドベンチストという名の下にいる一団が示された。彼らはわたしたちを他と区別された民とする旗印もしくはしるしをあまり際立たせるべきではないと助言していた。なぜなら、彼らはそれがわたしたちの機関に成功をもたらすのに最善の方針ではないからであると主張した。」(ヘクテッド・メッセージ 2 巻 385)

「教会は自分の指導者であられるキリストに従うことをやめてきびすを返し、着実にエジプトに向かって後退している。」(教会への証 5 巻 217)

「主イエスは、いつもご自分に仕える選ばれた民をもっておられる。ユダヤの民が命の君であられるキリストを拒んだとき、このお方は彼らから神の王国を取り上げ、それを異邦人にお与えになった。神はご自分の働きのすべての分野において、この原則にのっとり働きを継続される。教会が主のみ言葉に対して不忠実であることがわかった場合、彼らの立場がどのようなものであろうと、彼らの召しがかいかに高く神聖なものであろうと、主はそれ以上彼らと共に働くことはおできにならない。そのとき、重要な責任を負うために他の人々が選ばれるのである。しかし、もしこれらの人々が今度は自分たちの生活をあらゆる悪い行動から清め

ず、もし彼らが自分たちの境界内のすべてにおいて純潔にして聖なる原則を打ち立てないならば、そのとき主は彼らを嘆かわしいほどに苦しめ、低くなさる。そして彼らが悔い改めないかぎり、彼らをその場所から取り除いて非難的となさるのである。」(上を仰いで 131)

「神のみ旨を果たさなかつたために、イスラエルの子らは退けられて、神の招きはほかの国々の人びとにさしのべられた。だが、もし彼らも不忠実であれば、同じように拒まれるのではなからうか。」(キリストの実物教訓 283, 284)

「バビロンを構成する諸教会は、靈的暗黒と神からの離反に陥っているにもかかわらず、その中にはまだ、真のキリスト者が数多くいる。この時代のための特別な使命をまだ悟っていない人々が多くいる。自分たちの現状に満足せず、もっと明らかな光を待ち望んでいる者が、少なくない。彼らは自分たちの所属する教会の中に、キリストの姿を見ようとしても見ることができない。こうした諸教会が、真理からますます遠く離れ、世俗といっそう密接に結合するにつれて、二つのグループの人々の相違は大きくなり、ついには分離しなければならなくなる。」(各時代の争闘下巻 92, 93)

「わたしは、神が、名目的再臨信徒たちと、墮落した教会の中に、心の正しい人々を持っておられるのを見た。そして、牧師や信者たちが、災害が、くだされる前に、これらの教会から呼び出されて、喜んで真理を受け入れることをわたしは見た。サタンは、この事を知っている。第三天使の大いなる叫びがあがる前に、サタンは、これらの宗教団体に、興奮を起こさせ、真理を拒んだ人々に、神が彼らと共におられると思わせるのである。サタンは、心の正しい人々を欺いて、神がなお教会のために働いておられると彼らに思わせたいと願っている。しかし、光が輝き出る。そして、心の正しい人はみな、墮落した諸教会を去り、残りの民に加わるのである。」(初代文集 424, 425)

「御使が罪と罪人から分離しているすべての人々の額にしるしをつけ、それから滅びの天使が続いて、老若共にことごとく殺すことになる。」(教会への証 5 巻 505)

## 現代の真理のはっきりとした理解

「兄弟たちよ。それだから、ますます励んで、あなたがたの受けた召しと選び

とを、確かなものにしなさい。そうすれば、決してあやまちに陥ることはない。こうして、わたしたちの主また救主イエス・キリストの永遠の国に入る恵みが、あなたがたに豊かに与えられるからである。それだから、あなたがたは既にこれらのことを知っており、また、いま持っている真理（現代の真理：英語訳）に堅く立ってはいるが、わたしは、これらのことをいつも、あなたがたに思い起させたいのである。」（ペテロ第二 1:10～12）

「真理と神の栄光とは、切り離すことができない。われわれは、手近に聖書を持っていながら、誤った見解をもって神をあがめることはできない。多くの人々は、生活さえ正しければ、何を信じているかは問題ではないと主張する。しかし生活は信仰によって形造られる。光と真理が手近にありながら、それを聞き、それを見る特権を利用するのを怠るなら、われわれは事実上それを拒絶し、光よりもやみを選んでいくことになる。」（各時代の争闘下巻 364）

「真理の理論を信じるだけでは十分ではない。この理論を不信者に提示することが、あなたがたをキリストのための証人とするのではない。あなたがこの時代のためのメッセージを初めて理解したときにあなたの心を喜ばせた光が、あなたの経験と働きにおいて重要不可欠な要素である。そしてこれがあなたの心と生活からなくなってしまった。」（レクテッド・メッセージ 1巻 370）

「教理ははっきりと理解されなければならない。真理を宣べ伝えることを承認された人々はしっかりと錨で固定されていなければならない。そのとき、船である彼らは、嵐や暴風に対してしっかりとちこたえるのである。なぜなら、錨が彼らをはっきりととどめているからである。」（レクテッド・メッセージ 2巻 394）

## 古い地境

「人々が健全な教に耐えられなくなり……そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていく時が来るであろう。」（テモテ第二 4:3, 4）

「また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。」（テサロニケ第二 2:10）

「わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教団の信仰をぐらつかせようとする人々には目もくれないのを示された。神は彼らをごらん

になってよみされた。わたしは、第一、第二、第三の天使による三段階の使命を示された。わたしにつきそっていた天使は言った。『このメッセージをすこしでも変える者はわざわいだ。この使命を本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、この使命をどう受け入れるかにかかっている。』（初代文集 420）

「サタンは、神の民はこれらのメッセージの重要性、それらの時と場所をはつきり理解することがないようにと、たえずこれらのメッセージに影を投げかけようとしている。しかし、それらは生きて、終わりのときにいたるまで、わたしたちの宗教経験にその力を発揮しなければならないのである。」（教会への証 6 巻 18）

「サタンは地上に臨む全般的な滅びに、神の残りの民を巻き込みたいと望んでいる。キリストの来臨が近づくにつれ、彼はますます決意を固くして、彼らを覆そうと断固とした努力を払う。古い地境を信じる信仰を不安定にするような傾向のある何らかの新しい光、あるいは何らかの新しい啓示を得たと告白する男女が起こるようになる。彼らの教理は神のみ言葉のテストに耐えないが、魂は欺かれるようになる。」（教会への証 5 巻 295）

## 約束された助け

「サタンは第三天使のメッセージの宣布が抑制されるような事態を画策してきた。わたしたちは彼の計画と方法に気をつけなければならない。真理の語調が弱められたり、この時代のためのメッセージがあいまいにされるようなことがあってはならない。第三天使のメッセージは強められ、確認されなければならない。黙示録 18 章は、真理の啓示が控えめな言葉ではなく、大胆に力強く宣布されることが重要であることを明らかにしている。」（伝道 230）

「わたしたちは第三天使のメッセージをあまりにもあいまいな調子で伝えることによって民に深く印象づけない危険性がある。あまりにも他の多くの関心事がもちこまれているために、まさに力強く宣布されるべきメッセージが無気力で、声のないものとなっている。」（教会への証 6 巻 60）

「それからまた、もうひとりの力の強い天使が、地上へくだって第三天使と声をあわせ、その使命に力と勢いを与えるように、任務を受けているのが見られた。」（初代文集 448）

「第三天使のメッセージは地を行きめぐり、民を目覚めさせ、そして彼らの注

意を神の戒めとイエスの信仰に向けさせなければならない。もうひとりの御使は第三天使にその声を合わせ、そして地はその栄光によって明るくされる。光は増し加わり、それは地の全国民へと輝き出る。それは燃える光として輝き出なければならない。それには大いなる力が伴い、その黄金の光線は全地の面にいるすべての国語、民族、国民の上に注がれるにいたる。わたしはあなたにお尋ねする、あなたはこの働きのために準備をするために何をしているであろうか。あなたは永遠のために築いているであろうか。あなたはこの御使が、世に伝えるためにこのメッセージをもっている民を表しているのだということを覚えていなければならない。あなたはこの民のうちにいるであろうか。」(ビュー・アソド・ハラルド 1885年8月18日)

## 過去の過ちからの教訓

「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受け入れなかった。」(ヨハネ 1:11)

「祭司長たちや役人たちが、死刑に処するために引き渡し、十字架につけたのです。わたしたちは、イスラエルを救うのはこの人であろうと、望みをかけていました。」(ルカ 24:20, 21)

「ユダヤ人はメシヤを待ち望んでいた。しかし、このお方が来られるはずだと彼らが予言していた通りには来られなかった。そしてもしこのお方が約束されたお方として受け入れられるとすれば、ユダヤの博学な教師たちは自分たちが間違っていたことを認めざるを得なくなるのであった。これらの指導者たちは自ら神から離れていた。そしてサタンは彼らの思いに働きかけ、彼らが救い主を拒むようにと導いたのであった。自分たちの意見というプライドを放棄するよりは、彼らはこのお方がメシヤであられるというあらゆる証拠に対して自分たちの目を閉じた。そして彼らは自分たちが救いのメッセージを拒んだばかりではなく、イエスに対して人々の心をかたくなにさせた。彼らの歴史は、わたしたちに対する厳粛な警告となるべきである。わたしたちは主がご自分の民のために光を持っておられるときに、サタンがおとなしくわきに立って、彼らにそれを受け入れさせまいと何の努力もしないなどと夢にも期待するにはおよばない。彼は疑念と嫉妬と不信をかきたてようと思いに働きかける。わたしたちは神が送られる光を拒まないように気をつ

けよう。なぜなら、それはわたしたちを喜ばせるような方法ではもたらされないからである。わたしたちが自分の訪れの時を知らないばかりに、神の祝福がわたしたちを去ってしまうことがないようにしよう。」(教会への証 5 卷 728)

「多くの人々は神の民のために偉大な働きが成し遂げられるのを期待している。そして彼らの祈りは大いなる収穫のための助けを求めてこのお方の許へ上る。しかし、もし彼らの期待通りの方法で助けがもたらされるのでなければ、彼らはそれを受けようとしない。それどころか、キリストが現れた方法に失望したためにユダヤ国家がキリストに背を向けたように、その助けから背を向けるのである。」(教会への証 2 卷 142)

### このメッセージは民に伝えられるのである

「だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて」(使徒行伝 3:19, 20)

「道をふさぎ、よりはっきりとした光が民に届かないようにする人々の上に、主の譴責が向けられる。大いなる働きがなされなければならない。そして神は、わたしたちの指導者たちがもっと光を必要としていることをご覧になる。それは、神がなされるようにとご計画された働きを成し遂げるために遣わされた使命者たちと、彼らが一つになることができるためである。主は使命者を起こしてこられた。そして彼らに聖霊を授け、「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ」と仰せになられた(イザヤ 58:1)。だれ一人として、民と天からのメッセージの間に入るような危険を冒すことがないようにしよう。このメッセージは民に伝えられるのである。そしてもし人の中にそれを伝える声があれば、石でさえ叫ぶであろう。」(福音宣伝者 304)

「主はこの最後の働きを、一般的な物事の順序からはかなりはずれた方法、そしてどんな人間の計画とも相反する方法で成し遂げられると、わたしはあなたに申し上げる。わたしたちの間にはいつも神の働きを支配したがる人々がいて、世に伝えられるべきメッセージにおいて第三天使に加わる御使の指示の下に働きが前進するときに、どんな運動がなされるかまで決めつけようとする。神はそのみ手のうちに手綱をもっておられることがわかるような方法と手段をお用いにな

る。働き人たちは、このお方がご自分の義の働きをなしとげ、完全なものとするために用いられる単純な方法に驚かされることになる。」(牧師への証 300)

「そして神の共労者であるすべての人々は、かつて聖徒たちに伝えられた信仰のために最も熱心に戦うようになる。彼らは現代のメッセージ、すなわちすでにその栄光をもって地を明るくしつつあるメッセージに背を向けることはしない。」(セクレット・メッセージ 2 巻 114)

(52 ページの続き)

メートル先になると、おそらくかみなりはほとんど聞こえないでしょう。

いなづまの電力は、1000万から1億ボルトの電力になることがあります。それは太陽よりも6倍熱い温度です。

これらの事実を考えると、主イエスが天の雲に乗って、ふたたびこの地上に戻られるとは、なんと驚くべき畏敬に満ちたものであるか、ほんの少しわかります。ちょっとその光り輝くさまを想像して見てください、「いなづまが天の端からひかり出て天の端へとひらめき渡るように、人の子もその日には同じようであるだろう」(ルカ 17:24)。

栄光にみちたラッパの音が、忠実な魂を、眠っている墓から呼び覚まします、「ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである」(コリント第一 15:51, 52)。

ですから、わたしたちは次のように命じられています。「聞け、神の声のとどろきを、またその口から出るささやきを。彼はこれを天が下に放ち、その光を地のすみずみまで至らせられる。その後、声とどろき、彼はそのいかめしい声をもって鳴り渡られる。その声の聞える時、彼はいなづまを引きとめられない。神はその驚くべき声をもって鳴り渡り、われわれの悟りえない大いなる事を行われる」(ヨブ 37:2-5)。

## ほうれん草のポタージュ

### 〔材料〕

じゃがいも	中 2 個
たまねぎ	中 2 個
にんにく	1 片
セロリ (葉)	7,8 枚
ほうれん草	2 束
水	5 カップ
ココナツミルク	1 カップ
豆乳	1 カップ
塩	大さじ 1

### 〔作り方〕

1. 水にジャガイモ、たまねぎ、にんにく、セロリ、塩を入れてスープを作ります。
2. 湯をわかして塩を入れ(分量外)、ほうれん草をやわらかめにゆでます。
3. ほうれん草をフードプロセッサーにかけてペーストにします。
4. できあがったスープも、フードプロセッサーにかけてなめらかにします(スープが大目の場合は、中身だけを取り出します)。
5. ほうれん草、スープ、ココナツミルク、豆乳を鍋に入れて、火にかけてながらよく混ぜ、塩加減を調節して、できあがり。

濃さや塩加減はお好みで調整してください。

ほうれん草の緑鮮やかなポタージュスープ、召し上がるときに、豆乳やココナツクリームを入れて、マーブルにしてもきれいですよ。

## 教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



## 聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係  
是非お申し込み下さい。



## 書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



## いなづまから学ぶこと

「あなたは神のような腕を持っているのか、神のような声でとどろきわたることができるか。」(ヨブ 40:9)



かみなりといなづまー有名なペアですね!かみなりは、いなづまによ

て生じる音です。なぜ雲がそんなに大きな光と音を出すのでしょうか。

雲は、ただの静かなふわふわした気体のように見えるかもしれませんが、実際には中ではとても活発(かっぱつ)です。水と氷が雲の中で動きまわり、暖気によって押し上げられるかと思えば、引力によって引き下げられ、それから雲の中でおしこめられるといった調子です。風船をこすると静電気がおこることがあるように、これらの気温の変化が、充電を引き起こすことがあります。それは雲どうしの間だったり、雲から地面だったりしますが、こうして火花が生じるのです。この火花はおよそ摂氏 20,000 度で、熱せられた空気は、いなづまの衝撃波(しょうげきは:ショック波)を生じさせます。いなづまが空気を熱して、それを拡張(かくちょう)させ、今度は冷たくなるとすぐに収縮(しゅうしゅく)するので、かみなりの音が生じるのです。

「真空(しんくう)」では、光は毎秒およそ 300,000 キロメートル進みます。そして典型的(てんけいてき)ないなづまは、毎秒およそ 5,900 キロメートルです。時速ではないですよ一秒速なんです!しかし音が、空気中を進むのはもっとゆっくりです。およそ 880,000 倍もゆっくりです。海面では、毎秒およそ 340 メートルしか進みません。ですから、かみなりの音がみなさんのところへ届くまでに、4 秒ごとにいなびかりとごう音がすれば、かみなりの嵐(あらし)は、1.6 キロメートル先にあります。それが近づくにつれ、いなびかりとかみなり時間差は短くなっていきます。20 キロ